

令和6年11月近江八幡市教育委員会定例会（要旨）

1. 開催日時 令和6年11月21日（木） 午前9時30分～11時17分

2. 開催場所 近江八幡市水道事業所3階 AB会議室

3. 出席委員

教育長	安田 全男
教育長職務代理者	重森 恵津子
委員	西田 佳成
委員	大更 秀尚
委員	圓山 淳子

4. 事務局出席者

教育部長	太田 明文
教育総務課長	岡村 祥子
教育部次長兼学校教育課長	富江 康子
教育部次長兼生涯学習課長	清水 和仁
学校給食センター長	眞野 善博
近江八幡市立図書館長	奥村 恭代
スポーツ課長	村田 崇
国スポ・障スポ推進課長	伊崎 裕二
子ども健康部次長兼幼児課長	村北 幸司
教育総務課副主幹	但田 祐子
教育総務課副主幹	竹浪 雄大

5. 会議を傍聴した者 0人

6. 会議次第

【議案】

○議第14号 令和7年度教育費に関する当初予算の要求について（非公開）

○議第15号 令和7年度近江八幡市教育委員会教職員人事異動基本方針について（非公開）

- 議第16号 近江八幡市都市公園のうち有料施設の属する都市公園の管理及び運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について

【協議事項】

- 小学校中学年からの教科担任制について

【報告事項】

- 令和6年度就学相談・支援結果について

7. 議事の経過

(1) 開会（日程確認）

- ・教育長が11月定例会の開会を宣言
- ・出席委員定数の確認
- ・日程について **承認**

議案

- 議第14号 令和7年度教育費に関する当初予算の要求について
- 議第15号 令和7年度近江八幡市教育委員会教職員人事異動基本方針について

非公開

(2) 会議録の承認

- 10月定例会の会議録 **承認**

(3) 教育長挨拶及び報告

委員の皆様方には、小中学校の訪問を続けて実施していただいております。これまでの、小学校12校と中学校4校の16校中12校を訪問いただいた。あと4校だが、それぞれの訪問において、学校の現状課題その他いろいろと本音のお話も聞き取っていただいているところかと思う。様々な意見交換の中で感じ取っていただいたこともあろうかと思うので、そうしたことを踏まえて、本日もいろいろとご議論、ご意見をいただきたく、よろしくお願ひしたい。

また、先日は、総合教育会議において、市長と教科担任制についてご議論いただいた。議論の中で、いろいろと課題があるということも出てきたが、市長から「教育委員会において、課題等の対応も含めて、導入に向けて検討していただけたら」というお話があったので、本日も教科担任制の導入についてご意見を賜りたい。

さて、昨日は、滋賀大学のデータサイエンス学部の市川学部長を訪問し、教育についての意見交換をさせていただいた。今後の予定としては、滋賀県立大

学の井手学長とも同じようにアポイントをいただいております、本市の教育についての意見交換を予定している。そして、市内の県立高校の校長にもアポイントをいただいております、同じく本市の教育について各校長からご意見を頂戴したいと考えており、また、彦根工業高等学校の校長とのアポイントもいただいております、同じような意見交換をさせていただきたいと考えている。これらの目的は、「本市の中学2年生の将来の進路に対する選択肢を、公的な教育の中でしっかりと示すことができないか」ということを根本的に考えており、例えば、高校と中学2年生の連携、あるいは近くにある大学と中学2年生の交流体験のようなことが可能なのかなどを探るような意味もあり、いろいろ意見交換をさせていただきたいと思っている。

昨日のデータサイエンス学部の市川学部長、そして副学部長も同席いただいたが、その中で、学部長は、「教育現場の状況として、なかなか厳しい環境にある子どもに対して、いろいろな体験を公的な中学校においてさせてあげることが非常に大事である」ということを聞かせてもらっているとのことであった。また、学部長は、本市における中学2年生が、大学の雰囲気や高校の雰囲気、そういうものを体験するということは非常に大事であると思うとおっしゃっていた。

それと、少し難しい話になるが、「データサイエンスの入門のような、そういうカリキュラム的なものはあるか」とお尋ねしたところ、大学院生や学生が中心になって、漫画で「データサイエンスとは、どのようなものか」という導入の教材を作っているのだから、「そういうことを活用すれば、中学2年生でも理解していただけるのではないかと。そういうことは、今でも可能ですよ」というお話もいただいた。

具体的に何かが決まったわけでもないが、そういった可能性を探ることと、大学の学部長や高校の校長がどのようなことを考えておられるかということも、意見交換で把握しながら、本市の教育に反映できるものがあれば将来的には反映したい。そういう思いで、教育長として意見交換を重ねているところである。以上、最近の状況報告とさせていただく。

(4) 議事

◆議第14号 令和7年度教育費に関する当初予算の要求について（非公開）

【事務局説明】…各所属

【採 決】

令和7年度教育費に関する当初予算の要求について

承認

◆議第15号 令和7年度近江八幡市教育委員会教職員人事異動基本方針について（非公開）

【事務局説明】…学校教育課

【採 決】

令和7年度近江八幡市教育委員会教職員人事異動基本方針について 承認

◆議第16号 近江八幡市都市公園のうち有料施設の属する都市公園の管理及び運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について

【事務局説明】…スポーツ課

【質 疑】

○大更委員

運動公園の中に素晴らしい球場ができることについて、とてもいいなと思っている。3面から2面にするという事は、仕切りがあるとか、そういうわけではなく、広さができるので安全が高まるという認識で良いか。

○スポーツ課

そのとおりである。

○圓山委員

セミナリヨの方では、「仕込み及び後片づけの時間は、承認を受けた使用時間に含むものとするが、当該使用時間の前後20分以内は当該使用料を加算しない」とあるが、こういう屋外施設や野球場は、準備や後片付けの時間は、少し出るものなのか。

○スポーツ課

どのスポーツ施設もそうだが、準備も後片付けも含めた時間で、皆さんにご利用いただいている。

【採 決】

近江八幡市都市公園のうち有料施設の属する都市公園の管理及び運営に関する条例の一部を改正する条例の制定について 承認

●協議事項

◎小学校中学年からの教科担任制について

【事務局説明】…学校教育課

【質問等】

○教育長

教科担任制については、冒頭にも申し上げたとおり、教育委員の皆様には、市長との総合教育会議においてご議論いただいた。また、学校を訪問する中でも教科担任制に関する意見の交換もしていただいております、それぞれの委員が教科担任制に関する思いをお持ちだと思います。小学校の校長とも2回に分けて意見交換会をしたが、本音でいろいろ議論をいただいた。その報告もさせていただいたので、それらを踏まえて、更なる議論を深めたいと思うので、活発な意見交換をお願いしたい。

○大更委員

管理職の意見交流会の中身を分かりやすくまとめていただいたが、管理職が自分の学校でどのような形で教科担任制を進めていくのか、又は授業交換を進めるのかということは、教育長と教育委員4名の計5名でお伺いしたときにいろいろと話ができていますが、これを毎年人事交流等で入れ替わりのある学校の職員組織の中に、「このような意見が出てきている」ということで、重要な部分については、やはり校長先生から職員へ「こういう意義がある」、「こういう部分で大事にしていきたい」ということをお話しながら進めていかなければならないと思うので、特にそういう機会が重要になるのではないかと。

また、当然人員が増えると、その分校内の運営に新たな余裕のような部分も出てくるので、そういう余裕が出てきた部分を子どもたちへ還元してほしい。子どもたちに対する指導の高まりであったり、日々の生徒指導や子どもたちへの寄り添いというような部分の高まりであったり、そういった話を校長先生や管理職の方から進めていただけると、より良いのではないかと思います。

○圓山委員

昨日八幡中学校に寄せていただき、1年生と2年生の授業を見学させていただいたときに感じたことだが、例えば、八幡中学校であれば、八幡小学校、岡山小学校、島小学校、それから沖島小学校の先生にご案内を出されたが、どなたも来ていただけていなかったようである。仮に人材が増えて教科担任制になれば、もう少しそういう取組に参加いただけるような環境になるのか。もっと研修を重ねていただいて、先生の質も上げていただきたいし、小学校と中学校のなめらかな接続に当たっても、やはり中学校でどのような取組をされているかを、小学校5、6年の先生にも興味を持って時間を見つけて研修に行っていたらいいと思う。

○教育長

学校教育課の方で、そういう研修に参加するための厳しい環境の現状や、今後それをどうしていくかという方針のようなものがあれば、説明願いたい。

○学校教育課

昨日の八幡中学校については、実は学校教育課の方からも、あまり参加でき

なかったという現状がある。この11月の時期はいろいろな公開授業が設定されること、それから昨日は水曜日であったが、通常水曜日は学校の種々の会議が設定される日であるという現状があり、その辺の調整が必要であると感じている。

圓山委員がおっしゃったように、可能な限り小学校の方も、それから幼稚園も含めて参観に行けるように、できるだけ早く日程調整し、周知させていただきたい。それとともに、ご提案いただいたような体制を作っていけるよう、教科担任制、そして人員配置をする上で特に必要になってくると思うので、合わせて学校の方にも伝えていきたいと思う。

○西田委員

いろいろと学校を拝見させていただき、学校の規模であったり、子どもたちの特性であったり、地域性であったり、それぞれの特色があると感じている。そのような中で、教科担任制については、すぐに教科担任制を取り入れても問題のなさそうな学校と、一方でそうでない学校とが、必ず出てくるかと思う。これも適材適所という部分があるので、その辺は柔軟に対応していく必要があると思う。一気に推進できるような学校と、なかなか推進できない学校又はしない方がいい学校との温度差、足並みが揃わないという部分については、教育委員会側も「そういうことがあってしかるべき」ということを、十分理解しておくべきであると思う。そうでなければ、最終的に困ってしまうのは子どもたちであって、「子どもたちのためにやっていることが、結果子どもたちを困らせてしまう」では、子どもたちがかわいそうなので、その辺への留意をお願いしたいと思う。

○重森委員

教科担任制をスタートするに際して、丁寧に校長先生の意見等を聞く場をたくさん作っていただき、ありがたいと思う。また、総合教育会議をはじめとし、私たちが意見を言える場を、いろいろなところで設けていただき感謝している。来年度以降スタートした後も、そうした丁寧な聞き取りを十分にさせていただきたいと思う。

それと、教科担任制導入に伴い、一般財源でしっかりと非常勤講師6名の予算要求をしていただき、ありがたいと思っている。

それから、圓山委員がおっしゃった研修の話については、学校訪問した際に何人かの校長先生から「研修に行ってもいいが、出張旅費が十分ではなく、行くことができない場面もある」ということも聞いたので、研修で外へ出る態勢と、出るための旅費の予算確保も、十分な形でしていただけたらありがたいと思う。

○教育長

研修に出るための人的なゆとりであったり、ゆとりがあった場合において研修に参加しようとしたときの旅費の枯渇であったり、そういう現状や、それに対する対応、来年度予算に向けてなど、その辺りがあれば、学校教育課から

説明願いたい。

○学校教育課

例えば、市費講師に関しては、以前は生徒指導上の対応をするための出張旅費や研修に参加するための旅費の予算はついていなかったが、これについては数年前からつけていただくことができた。これは市費講師であるということでの市単費の旅費確保という状況だが、今回の学校訪問で聞いているところは県費負担の職員旅費の問題が発生してくる。しかし、聞いた以上はその部分について市でできるのかどうかということも含めて、調整させていただき、できるかどうかの検討もしていきたいと考えているところである。

それから、来年度については、担任外の教員が少ないところに非常勤講師を配置するための予算を計上させていただいている状況であるが、重森委員がおっしゃったように、本当に進めていくに当たっては、また市費講師を増員したことの効果等をしっかり検証していかなければならず、懸念されている出張についても、「こういう研修に行きたかったが行けなかった」という実情もしっかり把握させていただくことが必要になってくるので、その部分については、導入した後も検証を続けてまいりたいと思う。

○教育長

基本的なことになるが、授業交換や入り授業という単語があるが、その違いを簡潔に説明していただけないか。

○学校教育課

授業交換については、学級担任と学級担任が自分の学級に教えるのではなく、例えば、ある学級で国語を教えて隣の学級でも国語を教え、逆にその国語の時間帯にもう一つの学級の担任が算数を教えるというような「授業を交換する」というものである。それから、入り授業については、学級担任以外の教員が、例えば業務主任や県費で配置されている専科教員等の教員が学級に入って理科を教える。1組にも理科、2組にも理科、そして学年を超えて違う学年にも理科、というような形で教えるというものである。

○教育長

小学校中学年にも教科担任制を導入するということについては、今後のスケジュールとしては、まず研修会を予定している。釘持特任教授に来ていただき、研修会を11月と1月の2回にわたって、実際学校にも入っていただきながら、研修の機会を持たせていただく。そこには、「参加していただける教員もあれば、そうでない教員もある」ということにはなるが、教育委員の皆様方にもご案内申し上げ、一緒に聞いていただく。その後になるが、中学校の部活動強化の際にもさせていただいたように、私と教育部長で各小学校12校を訪問させていただき、30分ほどではあるが、その日参加できる全教員の方と教科担任制を導入することについての意見交換会をさせていただきたいと考えている。当然30分では全教員の意見を聞き取れるわけではないので、部活動強化と同じように、簡潔なアンケート調査、それから自由記載欄を設けたア

ンケート調査を実施し、全員の方々のご意見を把握させていただきたいと思っているところである。その中で、おそらく教員1人1人の本当の考え方やその傾向といったようなものが把握できると思うので、それをまた当委員会の委員の皆様方に共有させていただき、更なる議論を深めていきたいと思う。

今までの市長との意見交換も、各校長との意見交換もそうだが、委員の皆様からいただいたご意見も踏まえると、やはり小学校の規模や実情に応じて、目指すべきその教科担任制の方向というのは、それぞれ異なっていてしかるべきだと思う。

また、中学年において実施するというのを考えると、例えば、小学校の3年生はまだまだ幼い部分もあるので、一斉に4月から始めるのが良いのか、それとも夏休み以降に始めるのが良いのか、又はゴールデンウィーク以降に始めるのが良いのか。

それから、先ほど説明があったように、当分の間は学級担任もそのクラスにいて、教科担任の別の先生の指導と一緒に見守り、子どもたちの様子を見守っていくというようなケアのようなことも必要かと思っている。

いずれにしても、目標も様々であって良いと思うし、導入の仕方も本当に緩やかに、なめらかに導入していくのが良いのではないか。

そして、重森委員がおっしゃったように、導入後もその状況をしっかり把握し、フィードバックしていきながら、徐々に、子どもたちに悪い影響がないように、西田委員がおっしゃったような状況にならないように、微調整をしながら進めていった方が良いのではないか。

今、私はこのように思っているところであるが、その辺に関して何かご意見等があればお願いしたい。

○大更委員

近江八幡市以外の先進的に教科担任制に取り組んでいるところの情報が、あまり入ってこない。総合的な学習であれば、いろいろと情報も入ってくるが、もし先進的にされているところがあれば、また情報を聞かせてほしい。また、これについては、校長先生や一般の先生方にも情報を共有してはどうかとも思う。

○教育長

校長との意見交換の中で、例えば、「最近、新規採用職員の方がいわゆる専門性を持って卒業して来られていない。昔は、専門性を持ちながら、小学校教員として着任されていたけれども、最近はそのような専門性がない」というような話があった。また、「初任であるから当然ではあるのだが、それにしても昔の初任と比べて、担任を持つ力が弱いのではないか」というような話もあった。そこで、私の方から校長へ提案してみたのだが、「初任の方には、最初から担任を持たせずに、専科の方に回っていただいて、各クラス、2クラスであれば2クラスを、専科で「入り」で入ってはどうか。両方のクラスに入ることによって、各クラスの学級の状況、雰囲気、風土といったものの違いが分かる

し、そういう違いが、その学級を実際担任されている方の担任力によって生じているなど、その辺の発見に繋がるので、1～2年の間は担任を持たずに専科教員として、学級の違いも含めて各学級の担任のやっておられることを吸収していただいて、それから学級担任を持っていただくということは考えられませんか」ということをお話させてもらったところ、「とてもではないが、そんな余裕はない。すぐに担任を持ってもらわないと回りません」ということであつた。「別途学級担任の人員配置を増やせば、そういうことができるかもしれないが、現状ではなかなか難しい」というご意見もあつた。その辺りについて、皆様はどのようにお考えか聞かせていただきたい。

○大更委員

専科で授業をするというのは、担任が授業をするのも大変だが、教材研究もしなければならないことと、当然いろいろなクラスの子どもたちに対応できるだけの力が必要になってくるから、どうなのかなという思いもある。専科としての素晴らしい授業、楽しい授業、効果的な授業ができるかどうかは、正直少し不安かなという思いである。できることなら、初任の先生は、講師から上がってこられた先生も含めて、やはり自分のクラスのクラスづくりから、子どもたちに寄り添う力をつけていってもらいたいと思う。

○教育長

もし教科担任制の方から入っていただこうとしたら、人がいないから学年主任や生徒指導その他の役職も持ってもらうようなことになるので、増員がなければ、とてもではないが、初任では無理であろうというご意見であつたが、いずれにしても学級担任になってもらったなら学級担任としての力をそこで養ってもらって、そして全ての教科を教えるという力もそこで養ってもらおうということになる。ただ、それだと専門性を持たずに着任されておられるとしたら、いつその専門性を持ってもらえるのか。その辺のめどはどうなのかなと個人的には思うわけで、そのままずっと学級経営に追われながら全教科を教えていったときに、その方の専門性というのは、いつごろ、どのように育っていくのかという「どちらが先か」みたいなことを考えている。

もう一つは、今学級担任を実際に持ってもらっているが、だんだんその学級経営に自信がなくなって、休職してしまうという方も、あるにはある。我々が想像する以上に、今の若い新任教員は、学級担任を持つということの精神的負荷というものを感じておられるかも分からないので、このようなことも考えてみてはどうかと思った次第である。

○重森委員

初任者が「学級担任なしで」というのは、やはり「学級担任をしてこそその小学校教員」と思う。そう思うことから、「初任者は、学校の中で一番話題の中心になるところにいてほしい」という気持ちがある。やはり学校で起こっているいろいろなことは、担任をしないと話の中に入っていくのが難しいと思う。

それと、担任をするということは、「教科の指導以上に保護者対応で大変な

思いを忘れてしまっていて心が折れていく」ということもあると思うので、初任者研修の指導教員だけではなく、担任したときにフォローしてもらえる相手がいる、学校の中で誰にでも相談できる環境、困ったときに声をかけてもらえるような組織になっていれば、しんどい思いをせずに過ごせる場合もあると思う。そういう学校風土や雰囲気、校長先生なり管理職なりが中心になって作ってもらって、頑張れる場を作ってほしい。

何かまとまった意見になっていないが、そんな思いを強く持ちながら、今の話を聞かせてもらった。

○教育長

それでは、今日のご意見も含めて、しっかりと導入に向けて準備をしながら、なめらかに緩やかに導入を図っていきたいと思う。先ほど申し上げたように、これから釘持教授の研修もあり、学校現場の各教員との意見交換を予定している。そういうものも含めて、更に皆様方のご意見をお聞きし、いろいろな課題を克服し、デメリットが少しでも少なくなる形で進めたいと思うので、この議論については継続させていただきたく、よろしくお願ひしたい。

●報告事項

◎令和6年度就学相談・支援結果について

【事務局説明】…学校教育課

【質問等】

○重森委員

なかなか病弱や弱視の学級はないと思うが、その学級設置はスムーズにいきそうか。

○学校教育課

今後、1月に県の教育委員会の特別支援課からのヒアリングがあるので、それに対応するため、この結果だけではなく、直近の子どもたちの情報もしっかり集めさせていただき、設置の要望をさせていただきたいと思っている。

中でも、現在小学校の肢体不自由学級に在籍している子どもが中学校に行くケースについては、早くから連携を進めさせていただいている。

また、小学校の病弱・身体虚弱学級への就学の子どもについては、今現在知的学級におり、体の状況の変化によって病弱・身体虚弱学級への就学が望ましいというケースである。その学校については、既に病弱・身体虚弱学級があるので、そこについての新設要望等は必要ないという状況である。

また、小学校の弱視学級については、新たな新設要望をしていかなければならないので、しっかりと要望させていただきたいと思っているところである。

8. その他

9. 閉会

教育長が11月定例会の閉会を宣言